



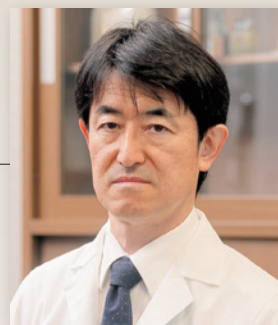
主な内容

- 巻頭言——天野附属病院長就任挨拶
- 特集——持続可能な医療を目指して —進展する医療DX
- トピックス——オープンキャンパス2026が開催されました
- 募金状況報告
- フリーページ——すこやかスポット歯学講座No.32
「口腔病変に対するNBI併用拡大内視鏡観察」
- 表紙写真：オープンキャンパスでにぎわうキャンパスモール（関連記事P.9）

附属病院長就任挨拶

附属病院長 天野 博雄

(皮膚科学講座 教授)



このたび、2026年9月1日付で岩手医科大学附属病院の病院長を拝命しました皮膚科学講座の天野博雄です。歴代病院長をはじめ、諸先輩方、そして職員の皆様が長年にわたり築いてこられた本院の伝統と歩みを受け継ぐことに大きな責任を感じるとともに、身の引き締まる思いでおります。

本学は創立以来、「医療人たる前に、誠の人間たれ」の精神を大切にしてきました。附属病院が掲げる「誠の精神に基づく、誠の医療の実践」もまた、時代や医療を取り巻く環境が変化する中であっても、私たちが折に触れて立ち返るべき大切な原点であると考えています。

患者さんにご家族の思いに丁寧に耳を傾け、安全で質の高い、そして一人ひとりに納得していただける医療を提供することを病院運営の中心に据えてまいります。本院は、県内唯一の特定機能病院として、高度で専門的な医療を提供するとともに、地域の医療機関と緊密に連携し、岩手県さらには北東北の医療を支える「最後の砦」としての役割を果たしていかなければなりません。高度救命救急センターや総合周産期母子医療センターをはじめとする本院の様々な機能を十分に発揮し、地域の皆様が安心して暮らせる医療体制の構築にこれからも貢献してまいります。

また、矢巾への移転と病院機能の集約を経た今、医・歯・薬・看護の四学部を擁する医

系総合大学の強みを、これまで以上に生かすことが求められています。診療、教育、研究を一体的に推進し、岩手の将来の医療を担う、人間性豊かな医療人を育てることも本院の重要な使命です。日々の診療の中で得られる経験を研究や教育につなげ、その成果をまた次の医療へと還元していく、そうした歩みを大切にしながら本院の使命を果たしていきます。

こうした役割を果たしていくためには、医師、看護職、医療技術職、薬剤師、事務職員をはじめ、本院を支えるすべての皆様の力が欠かせません。一人ひとりが持つ専門性を尊重し、職種や部署の垣根を越えて互いに支え合うことが、よりよい医療につながるものと考えています。

患者さんによりよい医療を届けるためには、職員一人ひとりが安心して働き、自らの仕事に誇りとやりがいを持てることも大切です。現場の声に丁寧に耳を傾け、皆様がそれぞれの力を発揮できる病院づくりに力を尽くしてまいります。

地域の皆様から信頼され、そして職員の皆様が、「この病院で働いて良かった」と思える病院であり続けるために、対話を重ねながら、一步ずつ歩みを進めていきたいと思えます。皆様の一層のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

特集

持続可能な医療を目指して—進展する医療 DX

デジタル技術の進展により、医療の現場も大きく変わり始めています。医療の質を高め、医療従事者の負担を軽減し、持続可能な医療を実現するため、岩手医科大学附属病院でもさまざまな医療 DX の取り組みを進めています。本特集では、医療 DX が目指すものを紹介するとともに、現在導入を進めているシステムや今後の展望を紹介します。

医療 DX が支える大学病院の未来

医療 DX とは

近年、国は「医療 DX」を重要な政策として推進しています。医療 DX とは、デジタル技術を活用して業務や仕組みを見直し、医療の質の向上と業務の効率化を図る取組です。

大学病院が抱える課題

大学病院では、高度な医療の提供に加え、医療人の育成や医学研究という重要な使命を担っています。しかし、診療の高度化や事務作業の増加、医師の働き方改革への対応などにより、医師や医療従事者の負担は年々大きくなっており、本来確保すべき教育・研究の時間が十分に確保できないことが課題となっています。

医療 DX で変わる大学病院

課題を解決するために期待されているのが医療 DX です。電子カルテや各種システムの連携、AI を活用したサマリ作成支援、音声入力などにより、事務作業を効率化するとともに、オンライン診療を活用することで、地域医療機関への移動時間を削減し、より効率的な医療提供が可能となります。特に広域医療圏を担う本学にとって、オンライン診療は医師の負担軽減と働き方改革を推進する有効な手段の一つです。

岩手医科大学が進める医療 DX

岩手医科大学では、大学病院改革プラン及び文部科学省の大学病院機能強化推進事業において、医療 DX を重要な柱として位置付けています。デジタル技術を活用して業務を効率化し、創出した時間を患者さんへの診療はもちろん、学生や研修医への教育、医学研究に充てることで、大学病院としての使命をさらに充実させていきます。

／ 持続可能な大学病院を目指して ／

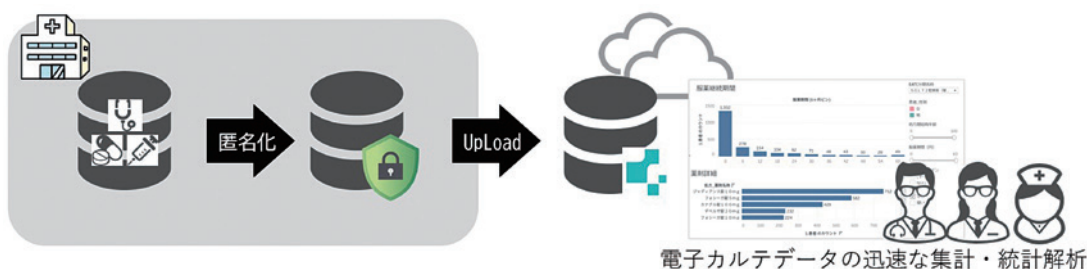
医療 DX は、単なるデジタル化ではありません。医師が本来の専門性を発揮し、診療・教育・研究に力を注ぐことができる環境を整えるための改革です。本学では、医療 DX を通じて持続可能な大学病院を実現し、地域医療へのさらなる貢献を目指してまいります。

導入システムの紹介

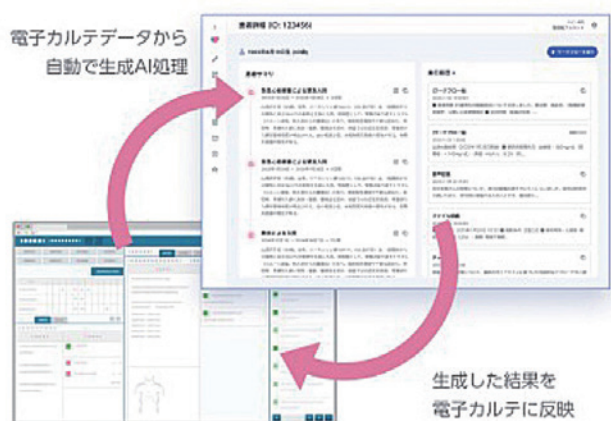
医療 DX の推進に伴い多くのシステムを導入し、稼働に向けた準備を進めています。主なシステムの概要や導入の目的、期待されること等をご紹介します。

■ 臨床情報分析支援プラットフォームの導入による教育研究基盤の強化 ……………

電子カルテ等の診療情報を定期的に収集・匿名加工したうえでクラウド環境に集約し、研究者が円滑に活用できる臨床研究データ基盤を構築します。研究者は可視化されたリアルワールドデータ（RWD）に安全にアクセスし、研究課題の探索から解析・検証までを効率的に実施できるようになります。これにより、臨床研究の障壁となっていたデータ抽出や加工、前処理に要する時間と労力を大幅に削減し、若手医師や大学院生が研究に取り組みやすい環境を整備します。また、指導教員の研究支援や教育負担の軽減にもつながり、研究指導の質向上が期待されます。さらに、学内の研究活動の活性化に加え、他大学や企業、行政機関との共同研究を推進し、研究成果の社会実装や外部研究資金の獲得を通じて、本学の教育研究基盤のさらなる強化を目指します。



■ 生成 AI を活用した臨床医の研究時間創出と診療報酬算定適正化を同時に実現する医療 DX



診療記録やカルテ情報を活用する AI システムを導入し、診療・教育・研究を支える基盤の強化を推進します。AI は上級医・指導医のカルテ記載や診療ガイドラインを学習し、若手医師がカルテを作成する際に、記載内容や構成、治療方針の検討を支援します。これにより、日常診療の中で根拠に基づく医療（EBM）を実践的に学べる環境を整備します。また、カルテ情報から退院サマリや診療情報提供書等の作成を支援し、文書作成業務の効率化を図るほか、診療内容に応じた適切な DPC コーディングを提案することで、診療の質向上と診療報酬算定の適正化に貢献します。医師の業務負担軽減により創出された時間を教育・研究活動に還元し、大学病院の機能強化につなげます。

■ 診療録 AI 音声入力・会話認識技術による外来・病棟業務の効率化 ……………

AI を活用した音声入力システムを導入し、診療記録作成の効率化を通じて、臨床医の研究・教育活動を支える環境整備を推進します。診察時の医師の発話をリアルタイムで記録するだけでなく、医師と患者さんの会話を人物別に認識し、診療録として必要な情報を自動的に整理・要約することで、診療後の記載業務を効率化します。これにより、診療の質を維持しながら時間外労働や業務負担の軽減を図ります。診療記録作成に要する時間を削減することで、医師が研究活動や教育・人材育成により多くの時間を充てられる環境を整備し、本学の教育研究基盤の強化につなげます。



■ AIを活用した医療説明動画作成支援システムによる説明業務の標準化・効率化 ……………

AIを活用した医療説明動画作成支援システムを導入し、患者さんへの説明業務の質向上と効率化を推進します。医師の顔や声を活用した説明動画の作成も可能となっており、検査や治療、手術、入退院に関する説明を患者さんやご家族が自身の都合に合わせて繰り返し視聴できる環境を整備します。これにより、説明内容の理解促進や不安の軽減を図るとともに、インフォームドコンセントの充実に期待されます。さらに、対面での説明業務や繰り返しの説明に要する時間を削減することで医師や看護師等の業務負担を軽減し、患者さん一人ひとりと向き合う時間の確保や、研究活動、教育・人材育成に充てる時間の創出につなげます。



■ セキュア遠隔電子カルテ運用基盤の整備による研究時間の創出 ……………

高度なセキュリティ機能を備えたシンクライアント端末を導入し、医師が自宅等から安全に電子カルテへアクセスできる環境を整備します。これにより、夜間・休日のオンコール対応時においても、電子カルテの確認や必要な診療業務を遠隔で実施できるようになり、緊急時の迅速な対応と医療提供体制の維持・強化を図ります。また、来院のための移動時間や身体的・精神的負担を軽減することで、時間外勤務の削減と業務効率化を推進します。さらに、診療と研究・教育活動の両立を支援し、医師が研究活動や人材育成に取り組む時間を確保することで、本学の教育研究基盤の強化につなげます。加えて、多様な働き方を支える環境整備を通じて、医師の継続的な活躍と人材確保にも貢献します。



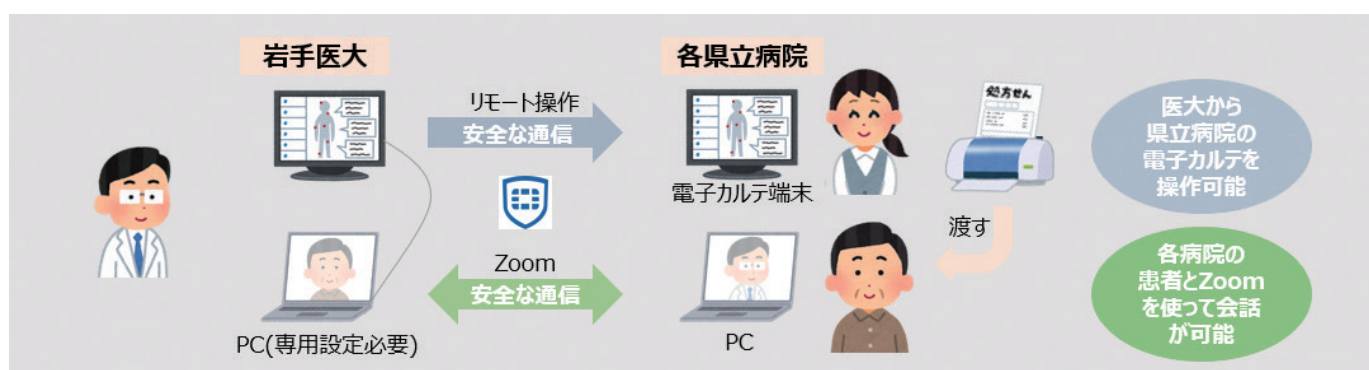
■ バイタルデータ連携システム整備による効率化および業務負担の軽減 ……………

バイタルデータ連携システムを導入し、バイタルサイン管理の効率化と医療従事者の業務負担軽減を推進します。体重計や各種測定機器で取得したデータを電子的に収集・連携することで、これまで看護師が行っていた転記や入力作業を削減し、入力ミスの防止や記録の迅速化を図ります。また、モバイル端末から患者さんのバイタル情報をリアルタイムに確認できるため、迅速な病状把握と適切な診療判断につながります。これにより、看護師の負担軽減と医師業務のタスクシフトを推進するとともに、患者さんのケアの充実や医療の質向上に寄与します。



■ 県立病院とのオンライン診療による地域医療支援の推進

本学は、県内各地の県立病院に対し、常勤医師や外来診療応援医師の派遣を通じて地域医療を支えています。沿岸地域への移動には片道約2時間を要し、大学病院の医師が研究や教育に充てる時間を恒常的に圧迫しています。今回、この課題を解決するため、県立病院とのオンライン診療体制を構築することとし、文部科学省の補助金を活用して患者さんのプライバシーを確保した専用個室をトクタヴェール3階および矢巾キャンパスのドライラボユニットへ設置しました。また、今後、オンライン診療に必要な端末等を整備する予定です。これにより、医師の負担軽減と研究時間の確保に寄与するとともに、患者さんの診療アクセス向上による地域医療体制の強化、業務効率化による経営基盤の強化を推進します。



今後の展望

これまで各部門・各システムに分散し、必ずしも十分に活用しきれていなかった診療データについて、医療DXへの本格的な舵取りにより、その利活用は大きく前進し始めています。臨床情報分析支援プラットフォームや生成AIの導入は、その象徴的な一歩といえます。

一方で、現場では依然として人手を介したデータの転記や伝達に頼らざるを得ない業務も多く残っています。今後は、システム間連携の強化によりこうした負担の解消を図るとともに、蓄積されたデータを研究や地域医療機関との連携に活用する、いわゆるデータの二次利用についても取り組みを進めてまいります。院内の業務効率化にとどまらず、学内外の研究活動の推進や地域医療への貢献にもつなげていくことが、今後の医療DXが目指す大きな方向性です。

こうした基盤整備を着実に進めることで、医療従事者の負担軽減と教育・研究時間の創出をより確かなものとし、患者さんにとっても医療従事者にとっても価値ある医療の実現に向け、着実に歩みを進めてまいります。皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



医療DX推進部会長
田中 良一 教授

新任教授の紹介

令和8年7月1日就任

口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野

泉澤 充 (いずみさわ みつる)



研究テーマ

口腔領域の画像診断

主な著者論文

- The relationship between histopathological findings in oral squamous cell carcinoma and FDG uptake on PET. Oral Radiology. 19: 149-157, 2003.
- Combined intra-arterial infusion and systemic chemoradiotherapy for stage IV squamous cell carcinoma of the mandibular gingiva. Japanese Journal of Radiology. 30: 752-761, 2012.
- Performance comparison in workflow efficiency between a remotely installed 3D workstation and an on-premises image processing workstation for dental cone-beam CT image reconstruction. Oral Radiology. 41: 355-362, 2025.

趣味

野球、釣り

教職員への自己PR

令和8年7月1日付で、歯科放射線学分野の教授を拝命いたしました。歯科放射線学は、画像診断を通して歯科医療全体を支える重要な分野です。疾患の早期発見や診断、治療計画の立案、さらには治療効果の評価に至るまで、その役割は極めて幅広い領域です。我々は、画像の向こうにいる患者さんを常に意識し、安全で質の高い医療を提供することを第一に考えてまいります。

今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

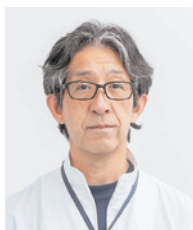
主な経歴

- 平成4年3月 岩手医科大学歯学部 卒業
- 平成4年4月 岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座 入局
(現 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野)
- 平成9年10月 岩手県立中央病院 勤務
- 平成11年2月 岩手医科大学歯学部歯科放射線科 入局
(現 口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野)
- 平成17年4月 口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野 講師
- 令和元年4月 口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野 准教授
- 令和8年7月 現職

令和8年8月1日就任

小児科学講座

石川 健 (いしかわ けん)



研究テーマ

- 小児の急性腎障害 (acute kidney injury)
- 小児の血液浄化療法 (blood purification)
- 小児の下部尿路機能 (lower urinary tract function)

主な著者論文

- Blood Purification for Paediatric Patients. Ishikawa K, Oyama K. Contrib Nephrol. 2019;198:21-32. doi: 10.1159/000496376.
- Ability of a novel system for neonatal extracorporeal renal replacement therapy with an ultra-small volume circuit to remove solutes in vitro. Nishimi S, Ishikawa K, Sasaki M, Furukawa H, Takada A, Chida S. Pediatr Nephrol. 2016 Mar;31(3):493-500. doi: 10.1007/s00467-015-3233-0.
- Validity of a disposable catheter to drain urine overnight in neurogenic bladder. Furukawa H, Ishikawa K, Tsuchiya S, Nishimi S, Sasaki M, Onodera C, Takada A, Oyama K, Chida S. Pediatr Int. 2019 Jul;61(7):706-711. doi: 10.1111/ped.13806.

趣味

世界中(日本中)のクラフトビール屋巡り
(晴れた日、昼間からビールが飲みたい)

教職員への自己PR

「ひとりでも多くの子どもたちの命を救い、成長し社会参加できるよう支援する」を目標に、臨床・研究・教育に取り組んでいます。臨床では、急性血液浄化療法を含む体外循環による臓器支援(ECOS)に注力し、子どもたちの救命に少しでも役立ちたいと願っています。研究では、ECOSに加え、急性腎障害・下部尿路機能に、非常に興味があります。教育では、学生さんの国試合格支援と、ひとりでも多くの子どもたちを救うために協働する小児科医の育成・支援を行っています。

皆様のご支援・ご協力なくしては、子どもたちを救うことはできません。是非に、ご支援・ご協力の程、お願いいたします。

主な経歴

- 平成3年3月 日本大学医学部 卒業
- 平成3年4月 岩手医科大学小児科 入局
岩手医科大学大学院 入学
- 平成7年3月 岩手医科大学大学院 卒業
- 平成7年4月 岩手県立久慈病院小児科 勤務
- 平成12年4月 岩手医科大学小児科学講座 助手
- 平成18年4月 同 特任講師
- 平成19年9月 メルボルン大学Howard Florey研究所
(visiting researcher)
- 平成22年8月 復職~同講師
- 令和元年11月 同 准教授
- 令和3年7月 同 特任教授
- 令和8年8月 同 講座内教授

矢巾町活動交流センター「やはぱーく」にて「メディカルぱーく」が実施されました

6月20日(土)と21日(日)、矢巾町活動交流センター「やはぱーく」にて岩手医科大学附属病院による「メディカルぱーく」が実施されました。

当日は、当院の看護師、薬剤師、救急救命士がブースを設け、助産師体験、お菓子を使った調剤体験、ドクターカーの見学など様々な体験コンテンツが用意され、参加者は貴重な体験を楽しんでいました。また、当院がんセンターのブースでは、リーフレットを配布するなど、がんに関する啓発活動を行いました。500人以上の来場者があり、大盛況のイベントとなりました。



助産師体験ブース

解剖体慰霊祭が行われました

6月27日(土)、大堀記念講堂において、第89回解剖体慰霊祭がしめやかに執り行われ、小笠原学長をはじめとする本学教職員と学生、ご遺族が参列しました。

慰霊祭では87霊(正常解剖62霊、病理解剖12霊、実践的手術手技向上研修13霊)の御霊に対する黙祷に続き、小笠原学長から祭詞、学生を代表して歯学部3年生近藤愛佳さんから慰霊のこたばが捧げられました。

式終了後、参列者全員による献花が行われ、ご献体された多くの方々へ深い感謝の意を表すると共にご冥福をお祈りしました。



慰霊のこたばを捧げる学生代表の近藤さん

医歯薬総合研究所 研究プロジェクト講演会が開催されました

7月11日(土)、大堀記念講堂において、医歯薬総合研究所の新体制や新たに始動する研究プロジェクトを紹介する「研究プロジェクト講演会」が開催されました。

医歯薬総合研究所では、創薬研究を軸に、地域・産官学金連携を一層強化し、「地域共創型大学」の実現を目指して組織改編を進めています。新体制のもとでは、新たな研究プロジェクトを創設し、研究成果や取り組みを学内で共有するとともに、分野を越えた連携を促進することとしています。

講演会では、9名のプロジェクトリーダーが登壇し、それぞれのプロジェクトの概要や研究内容、今後の展望について紹介しました。参加者は各プロジェクトの取り組みに耳を傾け、研究所が目指す新たな研究体制への理解を深めました。

仲研究所長は、「地元企業や若い研究者が育っていける研究所にするため、大学病院としての責務を果たし、医療と医学の両輪を動かしていく」と、今後の研究所の方向性を示しました。また、小笠原学長は、「医療産業をつくり、若い人を岩手に定着させ、人口流出を防いでいく。地域医療の質向上や医療人材の育成にもつなげたい」と述べ、研究を起点とした地域との連携強化や、地域の活性化に向けた展望を語りました。



報道関係者向けに大堀記念講堂ホワイエで行われた説明会



学内教職員、大学院生、学生に対し行われた講演会

オープンキャンパス 2026 が開催されました

7月25日（土）、26日（日）の両日、矢巾キャンパスでオープンキャンパス 2026 が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生や保護者など 822 名が参加しました。

当日は入学を希望する学部に分かれての学部紹介やミニ講義、体験実習のほか、在学生とのフリートーク、キャンパスツアー、教員との進学相談会等、たくさんの企画が用意され好評を博しました。

参加者からは「体験コーナーが充実していて、今まで行った中で1番楽しかった!」「教育がとても手厚く、施設も新しいので学生にとって勉強しやすい環境が整っていると思った」との感想が寄せられ将来の進路を決める為の有意義な機会となったようでした。



総合案内



体験実習（薬学部）



進学相談会

市民公開講座が行われました

今年、44 回目を迎えた市民公開講座（テーマ：からだの機能のメンテナンスを考える—生活の質を維持し、健康寿命を延ばすために）が、7月29日（水）から3日間にわたり矢巾キャンパス大堀記念講堂で行われました。

今年の市民公開講座は、5 講座が開講され、延べ 519 名の方々が受講しました。受講者は熱心に聴講し、貴重な学習の機会となったようです。

7月29日(水)

「人生100年、住み慣れた地域で、ずっと元気に。
薬局で始める『からだの点検』
～健康寿命を延ばす薬局・薬剤師活用術～」

臨床薬学講座 地域医療薬学分野

松浦 誠 教授



「元気な毎日を送るために
—肺と健康のお話—」

内科学講座 呼吸器内科分野

川田 一郎 教授



7月30日(木)

「『口の健康』と『全身の健康』の
繋がりについて」

口腔医学講座 予防歯科学分野

佐藤 俊郎 准教授



「人生100年時代の健康づくり
—プレコンセプションケアから
考えるライフコースアプローチ—」

成育看護学講座 母性看護学分野

蛸崎 奈津子 教授



7月31日(金)

「運動の効果はすごい!」

リハビリテーション医学講座

西村 行秀 教授



大堀記念講堂で行われた市民公開講座

表彰の栄誉

本学客員教授の服部 有宏 先生が ラスカー賞を受賞しました

本学客員教授の服部 有宏 先生が、2026 年の「ラスカー・ドゥーバーキー臨床医学研究賞 (Lasker-DeBaKey Clinical Medical Research Award)」を受賞しました。同賞は、米国のラスカー財団が 1945 年から授与している、医学・生命科学分野で世界的に権威ある賞の一つです。

今回評価されたのは、血友病 A 治療薬「ヘムライブラ (一般名：エミシズマブ)」につながった研究です。血友病 A は、血液凝固に必要な第 VIII 因子が不足・機能しないことで出血が止まりにくくなる疾患です。服部先生らは、第 VIII 因子そのものを補うのではなく、その働きを別の分子で代替するという新たな発想から研究を進めました。その結果、血液凝固に関わる第 IX 因子と第 X 因子を橋渡しする「バイスペシフィック抗体」を開発。第 VIII 因子の機能を代替することで血液凝固を促進し、エミシズマブの創製につながりました。皮下注射で投与でき、長期間作用する本剤は、患者さんやご家族の治療負担軽減に貢献し、血友病 A の治療を大きく変えました。

服部先生は「受賞を大変光栄に思う。ヘムライブラは優秀な研究チームと 10 年近く取り組んだ努力の結晶。この受賞を機に、若い研究者にはぜひ創薬に挑戦していただきたい」と語られました。



整形外科科学講座の宮崎 邦彦 助教が

North-East Spine Surgeons of Tomorrow (NEST) において Best Presentation Award を受賞しました



山部助教、宮崎助教、千葉助教

2026 年 5 月 30 日に開催された第 11 回 North-East Spine Surgeons of Tomorrow (NEST) に参加し、Best Presentation Award を受賞いたしましたのでご報告申し上げます。

今回私は、“Native Chondroitin sulfate proteoglycan restores anabolic activity in nucleus pulposus cells under physiologic conditions” という演題で発表いたしました。本研究は、椎間板髄核細胞が本来置かれている静水圧や浸透圧といった生理的環境に着目した基礎研究です。静水圧と細胞外基質由来の浸透圧を再現できる 3 次元培養モデルを用いて、コンドロイチン硫酸プロテオグリカンが髄核細胞機能に与える影響について検討しました。

その結果、コンドロイチン硫酸プロテオグリカンと静水圧を組み合わせることで髄核細胞の同化活性が促進され、より生理的な細胞環境の再現が重要である可能性が示されました。

研究会では多くの先生方から貴重なご質問やご助言をいただき、大変有意義な機会となりました。また、基礎研究の演題として多くの臨床医の先生方と議論することができ、大きな刺激を受けました。

このような賞をいただけたことを大変光栄に思うとともに、今後の研究活動の大きな励みとなりました。今後は、より変性の進行したヒト椎間板への応用や、椎間板変性に対する新たな治療法の開発につなげていきたいと考えております。

最後になりましたが、ご指導いただいた先生方、共同研究者の皆様、ならびに本研究会を開催・運営して下さった先生方に心より感謝申し上げます。

(文責：整形外科科学講座 助教 宮崎 邦彦)

整形外科科学講座の松浦 真典 助教が

東北整形災害外科学会において症例報告 Award 最優秀賞を受賞しました

このたび、2026 年 6 月 12 日から 13 日に弘前市で開催された第 123 回東北整形災害外科学会において、症例報告 Award 最優秀賞を受賞いたしました。

受賞演題は、「鎖骨下動脈、上腕動脈に動脈瘤を合併した神経線維腫症 1 型の 1 例」です。本症例は、私が当院高度救命救急センターおよび形成外科で研修中に経験した非常に貴重な症例であり、多くの学びを得る機会となりました。大学病院ではさまざまな症例を経験する機会がありますが、その経験を日々の診療に活かすとともに、学術的な発信を通じて広く共有することの重要性を改めて感じています。今回の受賞を励みに、今後も臨床と研究の両面で研鑽を積み、より良い医療の提供に努めてまいります。本発表にあたりご指導いただきました角谷賢一朗教授をはじめ、高度救命救急センターの横藤先生、形成外科の櫻庭実教授ならびにご協力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

(文責：整形外科科学講座 助教 松浦 真典)



松浦助教 (左)

表彰の栄誉

中央放射線部の岩城 龍平 診療放射線技師が

日本心血管インターベンション治療学会メディカルスタッフ放射線部門において最優秀演題賞を受賞しました



岩城診療放射線技師（左）

この度、東京国際フォーラムで開催された第34回日本心血管インターベンション治療学会メディカルスタッフ放射線部門において、最優秀演題賞を受賞いたしました。

発表演題「Variation Tree Analysis (VTA) による急変対応過程の可視化とレジリエンスの分析」では、心血管撮影室で発生した急変事例を対象に、VTAを用いて対応過程を構造化し、レジリエンスの観点から改善点を抽出した内容を報告しました。急変時の現場では、患者状態やスタッフ構成などの変動要因により判断調整が求められます。本研究では、行動・判断を時系列で整理し、通常作業、逸脱、調整行動、エラー、背景条件を図式化することで、急変早期に複数の調整行動が試みられていたものの、心理的抑制や環境変動、判断の迷いにより行動が遅れ、顕在化したエラーの背後に構造的要因が存在することを明らかにしました。

VTAは「どの時点で調整が必要となり、なぜ機能しなかったか」を可視化でき、調整を支える仕組み改善の方向性を示す手法として有用です。今後は症例を蓄積し、教育プログラム

や業務設計への展開を目指したいと考えております。

最後に、受賞にあたりご協力頂きました中央放射線部医療安全班の皆様、心より御礼申し上げます。

（文責：中央放射線部 診療放射線技師 岩城 龍平）

東北救急医学会総会・学術集会において医学部6年生の清田 有紗 さんが優秀賞、 医学部6年生の佐々木 茜 さんが奨励賞を受賞しました

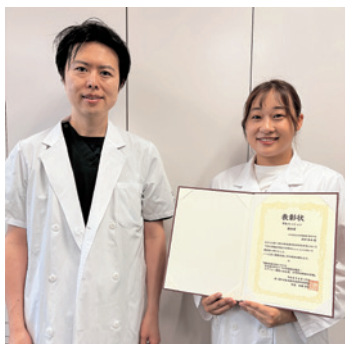
2026年6月13日に仙台市で開催された第40回東北救急医学会総会・学術集会の学生研修医セッションにおいて、本学医学部6年の 清田有紗さんが「熊による致死的外傷4例の損傷パターンに関する検討」で優秀賞を、佐々木茜さんが「稀なライフル銃創に対する治療戦略」で奨励賞を受賞いたしました。いずれの研究も、地域で実際に起こり得る重症外傷に対し、医学的洞察と臨床的意義を兼ね備えた内容であり、審査員の方々より高い評価をいただきました。当救急・災害医学講座では、学生の方々が早期から学会発表や研究に挑戦することを積極的に支援しています。今回の受賞は、学部教育と臨床現場が連携した学びの成果であり、今後も意欲ある方々の挑戦を応援していきます。学会発表にチャレンジしたい学生の方々、若手の先生方は是非お声掛けください。キラリと光る発表をともに目指しましょう。

（文責：救急・災害医学講座 教授 高橋学）



左端が佐々木さん、右端が清田さん

医学部4年生の武村 あみ さんが 東北整形災害外科学会において学生セッション優秀賞を受賞しました



千葉助教、武村さん

2026年6月12日～13日に開催されました、第123回東北整形災害外科学会に初めて参加いたしました。会場内には最新の医療器具が多数展示され、複数の会場で活発な発表や講演が行われている様子に触れ、学術集会ならではの活気と熱気に大きな刺激を受けました。

また、今回は自身初となる学会発表の機会をいただき、大変光栄なことに優秀賞を授与していただきました。発表に臨むにあたり、スライドの構成や効果的なプレゼンテーションの技法など、多くのことを学びました。練習を重ねるプロセスの中で、研究内容に対する自身の理解がより深まっていく過程が非常に印象に残っております。

当日は壇上で強い緊張を感じたものの、先生方や同期の皆と何度も練習を積み重ねてきた成果を発揮し、無事に発表を終えることができました。質疑応答では、「PSGの設置位置に迷うことがあるが、何か工夫している点はあるか」という、臨床に即した貴重なご質問をいただきました。これに関しては、今後さらに多くの症例を経験し、データを蓄積・検証していく中で、最適なアプローチを見出していく必要性を痛感いたしました。

自身の研究を多くの方に発信し、議論を交わすことで、対象への理解が多角的に深まるという学会発表の本質を学ぶことができ、私にとって大変有意義な経験となりました。今回の受賞は、抄録の作成から発表当日に至るまで、終始温かくご指導くださいました先生方、サポートしてくれた同期の皆様のおかげです。ありがとうございました。

（文責：医学部4年 武村 あみ）

表彰の栄誉

医学部4年生の道又 健太郎 さんが 医学生・研修医・専攻医の内科学ことはじめ 2026 で優秀演題賞を受賞しました

この度、第123回日本内科学会講演会の医学生・研修医・専攻医の内科学ことはじめ2026年4月11日：東京にて、医学部4年生の道又健太郎さんが優秀演題賞を受賞しました。演題名は、「免疫チェックポイント阻害薬による内分泌免疫関連有害事象に併発する他臓器irAEの特徴および生命予後の検討」で、共同演者の山本悠葉さんと共に当院における内分泌免疫関連有害事象（immune-related Adverse Event; irAE）発症者189例を対象に解析を行い、内分泌irAEの他に複数臓器のirAEを発症した群で生命予後が改善する可能性について報告しました。

道又さんと山本さんは、昨年の研究室配属の限られた期間で研究テーマに真摯に向き合い、取り組んできました。データの収集方法から解析方法の選択などを学び、1人の患者に生じるイベントが集団でみた治療成績にどのような影響を及ぼすのかまでを考察することができたと思います。お二人の今後のさらなる躍進を期待しています。

（文責：内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野 助教 千田 愛）



千田助教、道又さん、山本さん



会場での記念撮影

感染制御部と小児病棟が協働で取り組んだ感染対策ポスターが 日本環境感染学会総会・学術総会において ICT ポスターミュージアムベストデザイン賞を受賞しました

感染制御部と小児病棟が協働で取り組んだ感染対策ポスターが第41回日本環境感染学会総会・学術総会において、ICTポスターミュージアムベストデザイン賞を受賞しました。2023年度末から2024年度にかけて、小児病棟ではノロウイルス感染のアウトブレイクを経験しました。そこで、感染制御部、小児科医局、小児病棟から、小児病棟の感染対策コアチームを立ち上げ、こども達も楽しく参加できる感染対策を模索しました。その中で、病棟保育士の協力のもと入院中のこども達と手指消毒のポスター作製を作成し医局や病棟に掲示しました。こども達の工夫を凝らした絵で作成したポスター掲示やコアチームの活動により今年度はノロウイルス感染のアウトブレイクはなく過ごすことができました。感染制御部をはじめ、小児病棟に関わる全ての医療スタッフ、入院中のこども達と心をつなげて取り組んだ感染対策推進への成果が評価されました。

（文責：東7階A病棟 看護師長 杉下 佳子）



感染対策ポスターに携わったスタッフ



岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第35回目のご芳名紹介です。(令和8年6月1日～令和8年7月31日)

■ 法人・団体等 (2件)

<1,000,000>

株式会社 山田酒店 (岩手県盛岡市)

<100,000>

医療法人 杏仁堂 (長野県上田市)

(敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
主 陵 会	539	287,228,220
在 学 生 ご 父 母	407	97,820,000
役員・名誉教授	48	113,730,000
教 職 員	50	8,640,000
一 般	30	489,153,572
法 人・団 体	339	476,053,980
合 計	1,413	1,472,625,772

(令和2年9月1日～令和8年7月31日現在)

歯学部支援基金を通じた寄付

第6回目のご芳名紹介です。(令和8年6月1日～令和8年7月31日)

■ 個人 (10件)

<30,000>

石井 秀彦 (歯15)

<ご芳名のみ>

岩崎 浩二郎 (歯15) 白岩 和香苗 (医49)

村上 晶子 (歯13) 土門 宏樹 (歯12)

松田 葉 (歯17) 北村 靖 (歯16)

立花 透 (歯15) 高瀬 智子 (歯16)

鈴木 滋 (医25) (順不同、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
主 陵 会	112	20,989,000
在 学 生 ご 父 母	15	1,490,000
一 般	1	100,000
法 人・団 体	8	4,310,000
合 計	136	26,889,000

(令和7年7月1日～令和8年7月31日現在)

お知らせ 2026年10月以降の「診療土曜日」のテナント営業時間について

2026年10月からの附属病院の診療体制の変更に伴い、テナントの営業時間が変更になりましたのでお知らせします。

トクタヴェール

テナント名	診療土曜日	営業時間
ローソン	営 業	24H
タリーズ	営 業	7:30～17:00
レストラン (コンパス)	営 業	11:00～14:00
PanoPano	休 業	—
ギャラリー豆	営 業	11:00～16:00
岩手銀行	休 業	—
ケア・テック	営 業	9:00～13:00
スヴェンソン	営 業	9:00～17:30
芽吹き屋	休 業	—

矢巾キャンパス

テナント名	診療土曜日	営業時間
Yショップ	営 業	8:00～13:00
学食	休 業	—
丸善	休 業	—

内丸キャンパス

テナント名	診療土曜日	営業時間
歯学部売店	営 業	8:00～17:00

新入職員紹介

岩手医科大学へ新たに仲間入りした新入職員を紹介します。

仕事への意気込みやこれからの目標を語ってもらいました。

NEW EMPLOYEE



歯科衛生部

さ さ き
佐々木 りんか さん

毎日が勉強ですが、先輩方に支えていただきながら少しずつできることが増え、患者さんと関わる事にやりがいを感じています。そして新しく色々なことを学べる事がとても楽しいです

今後の目標

知識や技術をさらに身につけ、患者さんを安心して任せられる歯科衛生士になれるよう努力していきたいです。

歯科衛生士

趣味（休日の過ごし方）

ドラマ鑑賞、ショッピング、山登り

自慢ポイントは？

ご飯をもりもり食べます！

歯科衛生士を目指したきっかけは？

高校生で矯正を始めた時に歯に興味を持ち、歯は全身に関わる事を知り、歯科衛生士の仕事にやりがいや魅力を感じたからです。

入社して6か月、医療現場で働いてみてどうですか？

毎日が勉強ですが、先輩方に支



医学部教務課

た け だ
竹田 あみ さん

実習や進級試験対応など、大変な場面も多いですが、無事に終わったときは大きな達成感があり、やりがいを感じながら働いています。

今後の目標

まずは自分の担当業務をミスなくこなし、日々の業務を通じて多くの経験を積み、業務の幅を広げていけるよう努力します。

事務員

趣味（休日の過ごし方）

旅行

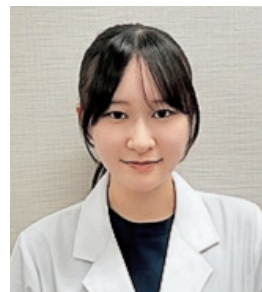
自慢ポイントは？

激辛料理が大好きで、唐辛子の辛さにはかなり自信があります！

岩手医科大学を志望した理由は？

地元で教育に関わる仕事がしたいと思ったのがきっかけです。医療従事者を目指す学生を支えることで、地域医療にも貢献できると考え、志望しました。

入社して6か月、医療現場で働いてみてどうですか？



視能訓練室

く ま が い ほ の か
熊谷 帆夏 さん

実際の医療現場でしか学べない知識や経験の重要性を実感し、自分にはさらに学びを深めていく必要があると感じています。

今後の目標

向上心と学ぶ姿勢を忘れず、何事にも積極的に取り組み、様々な症例を経験しながら知識や技術を高めたいです。

視能訓練士

趣味（休日の過ごし方）

釣り、動画鑑賞

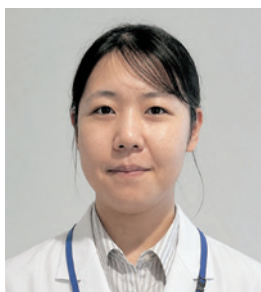
自慢ポイントは？

家庭菜園で野菜を育てること

視能訓練士を目指したきっかけは？

進路について考える中で眼科医療に興味を持ち、人々の「見える」を支えることで患者さんの生活に貢献できる仕事に魅力を感じたからです。

入社して6か月、医療現場で働いてみてどうですか？



薬剤部

い の う
内藤 まなみ さん

入社して6か月、医療現場で働いてみてどうですか？

覚えることが多く日々勉強の毎日ですが、患者さんや他の医療スタッフと関わる中で学ぶことも沢山あり、少しずつ成長できていると感じています。

今後の目標

知識や経験をさらに身につけ、患者さんからも、医療スタッフの皆さんからも信頼して相談していただける薬剤師になることが今後の目標です。

薬剤師

趣味（休日の過ごし方）

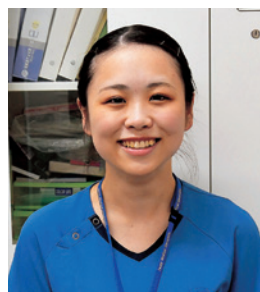
映画鑑賞、ショッピングです。休日は気になるお店を巡ったり、家でのおんびり映画を観たりして過ごしています。

自慢ポイントは？

行動力です。気になったことはとことん調べたり実際に足を運んだりします。

薬剤師を目指したきっかけは？

薬を通して患者さんの健康や生活を支えられる仕事に魅力を感じ、専門的な知識を身につけて人の役に立ちたいと思ったのがきっかけです。



リハビリテーション部

え の う え ひ な
江上 日菜 さん

患者さんと関わる中でやりがいを感じています。しかし、知識や技術はまだ不足しているため、今後さらに学んでいきたいです。

今後の目標

知識や技術を身につけるだけでなく、患者さん一人ひとりに合わせた対応ができ、状況に応じて臨機応変に行動できる言語聴覚士になりたいです。

言語聴覚士

趣味（休日の過ごし方）

休日は、カフェに行ったり、家でアニメを見たりしてます。

自慢ポイントは？

絵を描くのが得意です。

言語聴覚士を目指したきっかけは？

元々人と話すことが好きで、言語聴覚士の話す・聞く・食べる力を支えるリハビリに魅力を感じ、目指しました。

入社して6か月、医療現場で働いてみてどうですか？



東9階A病棟

ちば
千葉 くるみ さん

知識や技術がまだまだ足りないことを実感する毎日ですが、先輩方や患者さんに支えていただきながら頑張っています。感謝の言葉をいただけることが嬉しく、励みになっています。

今後の目標

患者さんやご家族の気持ちに寄り添い、安心してもらえる関りができる看護師を目指したいです。日々の学びを大切に先輩方のように信頼される看護師になりたいです。

看護師

趣味（休日の過ごし方）

旅行、ドラマ鑑賞

自慢ポイントは？

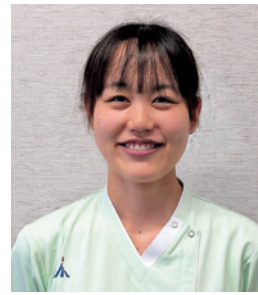
比較的どこでも寝れます！

看護師を目指したきっかけは？

高校生の頃に関わった看護師さんが優しく親身になって接してくれたことが印象に残っていました。人の役に立てる職業だと思い看護師を目指しました。

入社して6か月、医療現場で働いてみてどうですか？

知識や技術がまだまだ足りないこ



MFICU

たかはし あかり
高橋 亜加梨 さん

緊張で帰宅後、肩がバキバキの毎日ですが、妊産婦さんとの何気ない会話に癒されています。かっこいい先輩方に少しでも近づけるよう日々頑張りたいです。

今後の目標

患者さんを第一に考え、一つひとつのケアを丁寧に確実に行いたいです。また報連相を大切にチームで患者さんを支えられる助産師を目指します。

助産師

趣味（休日の過ごし方）

温泉巡り、旅行

自慢ポイントは？

少しだけ耳を動かすことができます

助産師を目指したきっかけは？

ドラマ「コウノドリ」を見て、妊娠・出産という人生の大切な瞬間に寄り添い、母子と家族を支える助産師に憧れたことがきっかけです。

入社して6か月、医療現場で働いてみてどうですか？

緊張で帰宅後、肩がバキバキの毎

日ですが、妊産婦さんとの何気ない会話に癒されています。かっこいい先輩方に少しでも近づけるよう日々頑張りたいです。

今後の目標

患者さんを第一に考え、一つひとつのケアを丁寧に確実に行いたいです。また報連相を大切にチームで患者さんを支えられる助産師を目指します。

1. 教員の人事について

病理学講座機能病態学分野 教授

仲矢 丈雄

（現 関西医科大学医学研究科・医学部病理学講座 准教授）

（発令年月日 割愛の状況による）

小児科学講座 講座内教授

石川 健（前 同講座 特任教授）

（発令年月日 2026年8月1日）

2. 人材育成支援に係る募金活動について

大学を取り巻く環境が大きく変化する中、本法人は、国や地域から信頼され、若い医療者が安心して学び続けられる大学として成長することを目指しており、そのためには地域との連携を深め、教育環境の維持・向上を図るとともに、将来の医療を担う人材が本学で力を発揮できるよう、継続的な支援体制を整えることが不可欠であり、その財源確保が喫緊の課題となっていることから、新たに人材育成のための募金制度として、「未来を担う医療者育成支援募金」を立ち上げ、寄付金は若手教員の研鑽支援や臨床現場で求められる実践的教育の充実等に活用していくことを承認した。

3. 職員就業規則等の一部改正について

「職員就業規則」について、2026年10月以降の土曜日の運営体制の変更に伴い、勤務時間や休日の規定を改正し、また福利厚生の上昇を目的に、特別休暇として現行の4週7休制と同等の勤務調整休暇を新設する他、別表第1の半日勤務の規定を削除及び給食勤務に業務調整勤務を追加する等の改正を行うこと、また、同運営体制の変更に伴い「職員の育児休業等に関する規程」、「職員の介護休業等に関する規程」、「臨床研修医就業規則」、「専門研修医就業規則」、「臨床研修歯科医就業規則」を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2026年10月1日）

4. 医学部学納金減免制度について

昨今の急速な少子化により、大学進学者数は今後ますます減少することが予測され、また、個別学力試験の実施日を2月1日以降とする文部科学省の通達が厳格化されたことにより各大学の入学試験日程が重複し、より一層学生の獲得競争が激しくなることから、質の高い学生を確保するために、本学独自の特色ある制度として、第2から第6学年の医学部学生のうち前年度の成績優秀者に対する学納金減免制度を導入すること、また、既存制度を拡充し、医学部一般選抜（地域枠含む）の入学者のうち成績優秀者に対し、人数と金額を増やして学納金減免を行うこと、本取扱いとは2027年度入学生から適用することを承認した。

5. 入学金の返還について

文部科学省通知において、私立大学における入学金に係る学生の負担軽減のための方策を講ずること、特に経済的に困難な学生への配慮が望ましいとしている他、同省が定める大学入学者選抜実施要項においても、入学金の負担軽減について明記されたことを踏まえ、経済的に困難な学生を対象に、入学手続き時に納付された入学金の半額を入学辞退者へ返還する制度を2027年度入学者選抜から導入することを承認した。

6. 医療専門学校学則の一部改正について

医療専門学校において歯科衛生士リカレント教育を行うにあたり、歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助の主要3科を中心に講義内容の見直しを行い、更なる適正化を図るため、医療専門学校学則を一部改正することを承認した。

（施行年月日 2027年4月1日）

1. 附属病院長の選任について

附属病院長 天野 博雄（新任）

（任期 2026年9月1日から2028年3月31日

（前任者の残任期間）

2. 8月臨時評議員会の開催日時及び議題・議案等について

1. 理事の選任について

附属病院長 天野 博雄（新任）

（任期 2026年9月1日から

2029年度定時評議員会終結の時まで）

2. 理事の職務担当区分について

天野理事選任に伴う2026年9月からの理事の職務担当区分について承認した。

3. 教員の人事について

創薬・医療機器開発部門 准教授

堀内 恵子（現 横浜市立大学医学部分子生物学教室 助教）

（発令年月日 割愛の状況による）

Oブロック外来

4月に新設されたOブロック外来は看護師7名、医師事務3名、受付事務4名で構成され、消化器内科・肝臓内科・総合診療科の診療を行っています。消化器内科では炎症性腸疾患（IBD）や消化管疾患・肝疾患・胆膵疾患など、急性期から慢性期まで幅広い疾患に対応しています。また、岩手県唯一の肝疾患診療拠点病院として、専門性の高い高度医療を担っています。総合診療科では、原因特定が難しい症状や複数の健康問題を抱え、診断や受診科の選択に難渋する症例に対し、総合的な視点から幅広く診療を行っています。私達は「専門的視点を持ち、対話を通じて継続的に患者さんを支える」ことを部署理念として掲げています。患者さんが安心して診療を続けられるよう寄り添い、生活習慣の改善や自己管理

への支援に努めています。今後も、多職種との綿密な連携のもと、患者さん一人ひとりがその人らしい生活を送れるよう最適な看護を提供してまいります。

（主任看護師 鈴木 祥子）



患者サポートセンター

患者サポートセンターは、入院前から退院後の生活までを見据え、入院前面談や入退院支援、ベッドコントロール、医療福祉相談、地域の医療機関からの転院受け入れなど、患者さんが安心して療養生活を送れるよう幅広い支援を行っている部署です。入退院支援部門、地域医療連携部門、医療福祉相談部門の3つを大きな柱とし、各病棟や多職種と連携すると共に、他の医療機関や介護・福祉関係者など地域と連携しながら、患者さんの入院前から退院後まで切れ目のない支援を行っています。患者さんの身体面だけではなく、生活背景やご家族の思い、不安や希望にも目を向け、「退院後はどのように生活したいのか」を一緒に考えることを大切にしています。一人の患者さんを多職種で支えることで、それぞれの視点から課題を捉え、必要な支援につなげています。

院内外のさまざまな職種と顔の見える関係を築きながら、患者さん・ご家族が安心して療養生活を送り、住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう多職種で連携し支援していきたいと思います。

（主任看護師 中村 英恵）



岩手医科大学報編集委員

祖父江 憲治	阿部 俊
影山 雄太	杉下 佳子
齋野 朝幸	石森 由樹
藤本 康之	高橋 淳美
白石 博久	伊藤 祥子
佐藤 泰生	稲垣 学人
藤澤 美穂	高橋美季子
細田留美子	松田 悠史
畠山 正充	菅 孔太朗
藤村 尚子	曾根 美都
高橋 慶	

編集後記

オープンキャンパス当日は、学内に普段とは少し違う活気があふれていました。期待と緊張の入り交じった表情でキャンパスを歩く高校生の姿を見ていると、自分自身も進路を考えていた頃を思い出します。大学選びは、将来につながる大きな選択の一つです。だからこそ、実際に大学を訪れ、学生や教職員の声に触れる時間には、大きな意味があると改めて感じました。今回の出会いが参加された皆さまにとって実りあるものとなり、未来への一歩につながれば嬉しく思います。

（編集委員 高橋 慶）

岩手医科大学報 第567号

発行年月日／令和8年9月30日

発行／学校法人岩手医科大学

編集委員長／祖父江 憲治

編集／岩手医科大学報編集委員会

事務局／総務部 総務課

TEL. 019-651-5111(内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷／河北印刷株式会社

盛岡市本町通 2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



口腔病変に対する NBI 併用拡大内視鏡観察

■ NBI とは

消化器内視鏡の画像強調観察 (image-enhanced endoscopy; IEE) である Narrow Band Imaging (NBI) は、病変の鑑別診断 (癌・非癌) および癌であれば深達度診断に有用です。NBI 併用拡大内視鏡観察で粘膜および粘膜下層にある上皮内乳頭状毛細血管ループ (intra-epithelial papillary capillary loop: IPCL) の強調表示を行うことが可能で、食道病変の血管分類は 2012 年に発表された日本食道学会拡大内視鏡分類が用いられています。Type A は異型の弱い上皮内腫瘍や炎症で、Type B は扁平上皮癌で認められ、B1 から B3 まで分類し、IPCL のループ形成を認める Type B1 は内視鏡治療の絶対適応です。NBI 併用拡大内視鏡観察で病変の質的診断を行うことは、適切な早期診断と早期治療を進めることが可能となります。

■ 質的診断の検討

食道と口腔粘膜は扁平上皮で、口腔粘膜においても NBI 併用拡大内視鏡観察で癌・非癌の質的診断を行い、正確な組織診断を行うために狙撃生検が可能と考えます。そこで、現在、本学口腔外科学 (山田浩之教授) と口腔病変を対象に NBI 併用拡大内視鏡観察を施行して質的診断を検討しています。口腔病変における IPCL は、既報から Type 0 から Type IV に分類されています。Type 0 は正常な粘膜、あるいは角化などで血管が観察されない状態、Type I は主に正常な粘膜、Type II は主に炎症部位または非悪性病変、Type III は主に前癌病変または悪性を疑う病変、Type IV は悪性病変と考えられています。NBI 拡大内視鏡検査は、口腔潜在悪性病変 (oral potentially malignant disorder: OPMD) の悪性化を診断するために有用な非侵襲的手法と考えます。

■ 最後に

口腔病変で用いられている分類と食道学会分類の表記は異なりますが、口腔病変の NBI 併用拡大内視鏡観察における Type III と IV は食道学会分類の Type B2、B3 に相当すると考えます (Figure 1、2)。一方で、口腔における物理的刺激に影響する炎症所見や角化病変による病変部の観察困難などの特徴を理解し診断することは大切です。さらに食道病変の Type B1 は内視鏡治療を施行しており、口腔病変の Type II 病変に対する取扱いについても疾患の特徴を考慮し検討を要すると考えます。今後、OPMD および口腔扁平上皮癌の診断に NBI 併用拡大内視鏡観察の精度がさらに向上することを期待します。

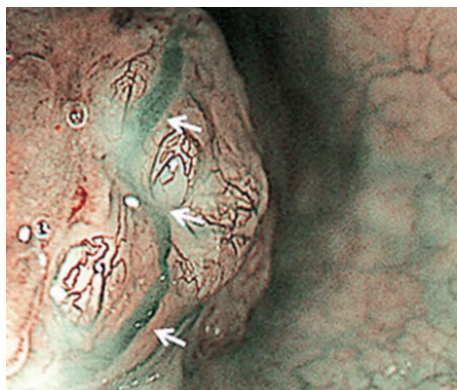


Figure 1: 食道病変の NBI 併用拡大内視鏡観察 (Oyama T, et al. Esophagus 2017;14:105-112 より引用)
Type B3 の高度に拡張した不整な血管 (白い矢印) を認める

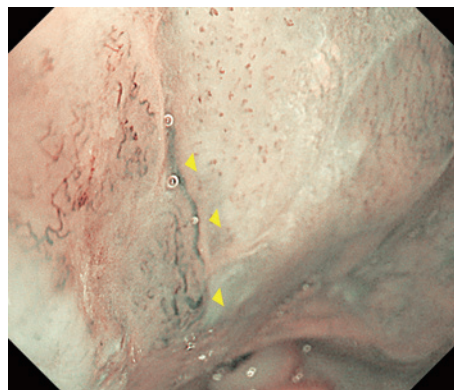


Figure 2: 口腔病変 (舌) の NBI 併用拡大内視鏡観察 (本学口腔外科学 秋本祐基先生 ご提供)
Type IV の高度に拡張した血管を認める (黄色の矢頭)